

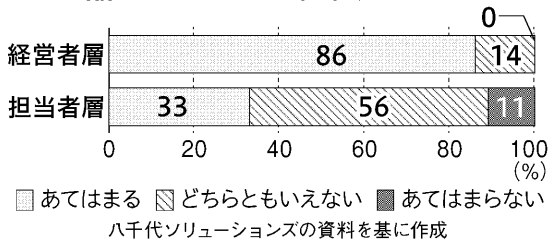
設備保全システムを導入しても、点検時間の短縮の実感は経営層と現場では50%もの開きがある。八千代ソリューションズ（東京都台東区、水野高志社長）のまとめた調査で、システムの導入は経営層が期待するほど現場の担当者は効果を得られていない実態が明らかになった。水野社長は現場の需要に適した機能や支援体制のシステムが重要であり、「経営層と現場の双方が納得できるシステムの導入が必要」とコメントしている。

設備保全システム導入

八千代ソリューションズ 短縮することができ
 ingsが全国の製造、建 一かを経営層と現場
 設、鉄鋼業の設備保全 の担当者層の双方に聞
 担当者500人を対象 いた設問では、経営者
 に5月に実施した調査 層の86%が短縮できる
 で明らかになった。 と回答した。これに対
 メンで利用中のシ し担当者層は33%にと
 ステムについて「現場 どまっており、50%以
 での点検記録の時間を 上の開きがあった。

時短効果実感、現場33% 経営層86%と認識差大きく

設備保全システムの導入が点検時間の短縮につながるか認識にギャップ



データ集約負担が増加

この認識差について、結果として負担の増大が懸念されている。経営層は「販売されている軽減につながるという保証ツールの多くが「い恐ろしい」と指摘している。担当者層は「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。また、担当者層は「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。

「経営層は集約された情報で便益を感じている一方、現場は集約のため減や人手不足に関する課題と認識していた。データ入力項目よりも多くの人が「蓄積にさらされる時間を取られること」を懸念していた。一方、勤務先の保全業務の管理方法を変更する際の課題を聞いたところ（同）、従業員の間では「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。また、担当者層は「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。

なるデジタル業務において課題と感
 データ化のツ 業務において課題と感
 ールの延長に じる項目について尋ね
 過ぎない点に 「故障・修理に時間がか
 課題がある」 かる」「保全業務の属
 とした上で、 している人（248人）
 「経営層は集 用中のシステムの特徴
 約された情報 管理が煩雑」などが挙
 で便益を感じ げられていた。これら
 る一方、現場 の項目は、コストの削
 は集約のため 減や人手不足に関する
 のデータ入力 課題と認識していた。
 ・蓄積にさら 項目よりも多くの人が
 される時間を取 「蓄積にさら
 られること される時間を取
 業務の管理方法を変更する際の課題を聞いたところ（同）、従業員の間では「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。また、担当者層は「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。

「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。また、担当者層は「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。

「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。また、担当者層は「新しい技術に対する理解が不足」「社内でのトレーニングが不足」など、現場の負担が増加している。